

(四国地方整備局からのメッセージ)

◆◆◆四国地方整備局トピック 2016. 11. 11◆◆◆

■GPS波浪計 津波観測情報配信システムについて
—より多くの自治体の皆様のご利用をお待ちしております—

11月5日、高知港で大規模津波防災総合訓練を実施しました。今年は昭和南海地震発生後70年目でもあり津波について印象深い年です。
そこで、今回は「GPS波浪計津波観測情報配信システム」について紹介します。

四国地方整備局では昨年2月からGPS波浪計津波観測情報を管内の地方気象台や協議の整った自治体に配信しています。今年は配信先を太平洋沿岸から瀬戸内海沿岸の自治体にも拡大すると共に、現在、四国管内3基の波浪情報に加え、他整備局のGPS波浪計の情報も活用を検討するなど内容の充実にも取り組んでいます。

GPS波浪計は、防波堤など高波浪に耐える港湾施設の設計に用いる波高等のデータを取得するため、全国19箇所に設置しています。
データは24時間365日、1秒間隔で観測し、沿岸部から約20km沖、深さ約300m程度の海域から陸上局にリアルタイムで送信しており気象庁にも提供しています。
東日本大震災の際は、GPS波浪計が津波を沿岸部到達約10分前に観測し、気象庁がその情報をふまえ津波警報を6mから10m以上に引き上げました。そこで四国地方整備局は、自治体の防災担当者が配信システムにより観測値をいち早く受け取って迅速な避難誘導等に資することを期待しています。

このシステムは、気象庁が津波注意報・警報を発令後、観測波高(偏差)が30cmを越えたときに、計測時刻と観測値を電子メールで通知します。沿岸部の津波高は、厳密には地形条件や津波の進入方向によって異なりますが、グリーンの法則を用いれば、例えば深さ300mの海域で観測値が30cm、70cmの場合、沿岸部に到達する津波高はそれぞれ1m、3mと計算されます。
すなわち、沖合の観測値が小さくても、沿岸部の津波高はその3～5倍以上になるおそれがあるため、情報を受信した方はそのことを理解することが重要です。電子メールにもそのことは付記しています。

なお、中央防災会議によれば南海トラフ地震が発生した場合、最短4分で1mの津波が到達すると予測される市町村もあります。しかし、津波が到達しても防潮堤を越えるまでに一定の時間があれば、津波情報を得て迅速に行動することにより、津波が来襲するまでに避難できる可能性があります。

例えば、四国地方整備局のシミュレーションでは、南海トラフ地震が発生した場合、室津港には1mの津波が約5分で到達しますが、3mの津波は約9分、最大の9mの津波到達迄には約25分かかるとされています。

現在、配信システムは地方気象台、関係県庁の他、徳島、高知、愛媛県内の33市町村に利用頂いています、今後も内容の充実に取り組んで参りますので、自治体の皆

様のご意見・ご要望等を頂ければ幸いです。

[参考]GPS津波観測情報提供市町村（平成28年11月10日現在）

- 徳島県内（徳島市、鳴門市、小松島市、阿南市、海陽町、松茂町、北島町、藍住町）
- 高知県内（高知市、安芸市、南国市、土佐市、須崎市、宿毛市、四万十市、香南市、東洋町、田野町、安田町、芸西村、中土佐町、四万十町、大月町、黒潮町）
- 愛媛県内（松山市、今治市、宇和島市、八幡浜市、新居浜市、伊予市、西予市、上島町、愛南町）

四国地方整備局

港湾空港部長 安部 賢

■第3回 四国八十八景実行委員会選定部会及び現地調査について

【企画部 企画課】

四国らしさの感じられる素晴らしい景観を四国八十八景として選定し、四国来訪者の増加と地域活性化の実現を図ることを目的とした「四国八十八景プロジェクト」。今回の第一期募集期間（平成27年12月～平成28年5月）において199件の応募があり、去る9月29日に第3回選定部会、また翌30日に委員による現地調査が実施されました。

【選定部会 開催概要】

開催日時：平成28年9月29日（木）14:00～17:00（本局13階1306会議室）

【現地調査 開催概要】

開催日：平成28年9月30日（金）（香川県内の応募箇所のうち、8箇所）

選定部会において各委員からは、「定番の観光名所であっても別な視点からの切り口が必要」「『おもてなし』は眺める場所を整備するだけでなく、迎えるための丁寧な作りが必要」などの意見がありました。

また、現地調査においては、坂出市の東山魁夷せとうち美術館の調査時に、マスコミ教社から堀選定部会長（東京大学教授）や三浦選定部会長代理（（一財）国土技術研究センター理事）に対しインタビューが行われました。堀選定部会長からは、「四国でまだまだ知られていない箇所を掘り起こして行きたい。」、三浦選定部会長代理からは、「四国はおもてなしの文化。そういうことも味わって頂ける場所を選びたい。」等のコメントがありました。

四国八十八景実行委員会選定部会は、今年度中に第一期分を選定する予定です。

<http://www.skr.mlit.go.jp/kikaku/88-kei/>

■『建設フェア四国2016in高知』が開催されました！

平成28年10月14日（金）、15日（土）の2日間、高知ちばさんセンターにおいて、『建設フェア四国2016in高知』が開催されました。二日間で約3,500人の来場者が訪れました。

当日は120のブースにおいて、各企業・団体による最新の建設技術の紹介が行われました。また、3高専合同の「どぼじょ工作教室」、高知県左官タイル業協同組合の「左官体験コーナー」、官民の女性技術者と学生が土木の魅力や仕事と家庭の両立などについて語る「女性技術者と語ろう!」、船から高知港を見学する「みなとウォッチング」、遠隔操縦式バックホウや降雨体験装置などの体験できる「災害対策車両展示」、土木学会四国支部主催の「近代土木遺産巡りバスツアー」など様々なイベントを実施、また「こうち防災フェスタ2016」が隣接地で同時開催され、会場には家族連れや学生など様々な参加者の姿が見えました。

フェア当日は天候や気温など気象条件にも恵まれ、大盛況のうちに終了しました。関係者の皆様、ご協力ありがとうございました。

<https://www.skr.mlit.go.jp/kikaku/shikokukensetsu/fair.html>

■国営讃岐まんのう公園の「ウィンターファンタジー ～水toいのち～」

【香川河川国道事務所】

国営讃岐まんのう公園では、毎年多くのお客さまにご好評をいただいている『ウィンターファンタジー』を平成28年11月19日（土）から平成29年1月3日（火）まで開催します。

今年のウィンターファンタジーは、55万球のLEDを使用し、テーマは「水toいのち」をテーマとして、生物にとって欠かせない水の性質や美しさをLED電球やスポット照明で表現したイルミネーションを行います。入口正面にある「エントランス広場」では高さ10mのシンボルツリーが皆様をお出迎えします。さらに「緑と石のヴィスタ」では、壁面の石垣は華やかな光で覆われ、「昇竜の滝の上広場」には四国最大級の地上高5mのシャンパングラスタワーが登場します。公園のシンボルである水の落差約9mの人工滝「昇竜の滝」もライトアップされ、1時間に1回の瀑布は迫力満点です。「芝生広場・風花の庭」のエリアには、絨毯のように広がるグランドイルミネーションが楽しめます。さらに、地元の高校生が考えたデザインを、イルミネーションで表現するエリアなど見どころ満載です。また、週末を中心に、特別体験教室や各種イベントも開催しております。

まんのう公園で素敵な一夜を大切な人と過ごしてみませんか。

※1.平成28年11月19日（土）～平成29年1月3日（火）
休園日：毎週火曜日（11/22（火）、12/27（火）、1/3（火）は開園）
12/29（木）～12/31（土）、11/19（土）～12/22（木）

営業時間：土・日曜日、祝日 21：00まで開園
土・日曜日、祝日を除く 20：00まで開園

※2. 季節の花情報や旬のイベント情報については、国営讃岐まんのう公園ホームページでご確認ください。(http://sanukimannoupark.jp/)

■「津島道路」着工記念の現場見学会を開催

【大洲河川国道事務所】

「一般国道56号津島道路」は、四国8の字ネットワークの一部を形成する延長10.3kmの自動車専用道路であり、南海トラフの巨大地震などの災害発生時における緊急輸送道路の確保や、第三次医療施設までの速達性の向上、地域間交流の活性化などを目的として、平成24年度に事業化を行い、整備を進めております。

このたび、津島道路で初めての工事着工を記念して、平成28年10月7日に柏小学校児童や地元関係者を招いて、現場見学会を実施しました。

見学会は、秋晴れのもと、13時30分より愛南町柏地区の柏川橋(仮称)工事現場にて行い、柏小学校5・6年生児童11名、愛南町長、宇和島市長他約70名の方々に出席いただきました。

はじめに主催者である上林事務所長の挨拶があり、石原副所長より高速道路の役割や津島道路の整備により期待されるストック効果、柏川橋(仮称)の工事概要の説明を行いました。また、記念イベントとして、参加児童に、『愛南町にたくさんの方が来るのを期待します』など、南予へ伸びる津島道路への想いを立札に書いてもらい、プランターへ花を植えてもらいました。その後、清水愛南町長、石橋宇和島市長からは『事業を積極的に進めていただきありがとうございます』や『愛南町にとって念願の高速道路時代がやってくる』など感謝や期待の言葉をいただき、最後に記念撮影を行い、現場見学会を締めくくりました。

当日は、地元テレビ局、ケーブルテレビ局、新聞社が取材に訪れ、津島道路における期待や関心の高さが伺えました。

大洲河川国道事務所は、地域間の交流や地域産業の活性化に貢献し、救命救急や南海トラフ巨大地震などの災害発生の際に『命の道』となる高規格幹線ネットワークの役割を担う津島道路の一日も早い開通に向けて、引き続き愛媛県・宇和島市・愛南町と一体となって事業推進に取り組めます。

■平成28年台風16号における治水施設の効果について

【那賀川河川事務所】

○桑野川の出水状況

桑野川流域では、豪雨により、阿南市長生町の大原水位観測所(基準地点)において、9月20日11時10分に水防団待機水位、同11時50分に氾濫注意水位、同12時30分に氾濫危険水位(無堤)、同13時40分に避難判断水位(有堤)、同14時00分には最高水

位 (5.55m) に到達しました。

また、台風16号のピーク水位は、平成11年6月洪水、平成10年5月洪水、平成10年9月洪水につき観測史上4番目となりました。

○桑野川引き堤事業の効果

台風16号豪雨により、桑野川流域の谷口雨量観測所（阿南市新野町）では、降り始めから9月20日15時までの累加雨量は、298mmを観測しました。

桑野川では、平成11年6月洪水を契機として、再度災害による浸水被害を軽減させるため、平成11年度から平成20年度において、緊急的な河道改修（引堤、河道掘削）を行い流下能力を向上させました。

その結果、同規模の洪水で大原地点の水位を65cm低下させることが可能となり、堤防からの漏水を防ぐとともに、浸水被害を軽減させることができました。

■平成28年9月台風16号・中筋川の治水効果について （堤防及び中筋川ダムにより氾濫を防止）

【中筋川総合開発工事事務所】
【中村河川国道事務所】

平成28年9月台風16号により、中筋川の山奈雨量観測所における降り始めからの総雨量は466mmを記録し、この豪雨より、基準地点磯ノ川水位観測所での水位は計画高水位（8.37m）を超過するとともに、最高水位は戦後第2位規模（8.85m）となりました。

中筋川の堤防はこれまでの治水事業によって概成し、中筋川ダムは完成しており、台風16号洪水で計画高水位を超過したものの、この堤防・ダムの効果によって中筋川が溢れること（越水）による堤防決壊を防止することができました。

中筋川ダムでは、最大流入量（毎秒約351立方メートル）の約84%を貯留し、放流量を毎秒約56立方メートルに低減したことにより基準地点磯ノ川水位観測所の水位を約125cm低下させました。（現在、建設中の横瀬川ダムが完成していた場合は、さらに60cm低下（計画高水位以下に低下）させることが期待できます。）

また、中筋川沿川での内水による浸水被害軽減のため、左岸楠島箇所（清水樋門）に排水ポンプ車（150m³/min）を配備し、緊急排水活動を実施しました。

※上記の数値等は速報値であるため、今後の調査で変わる可能性があります。

■11月11日は「公共建築の日」 11月は「公共建築月間」です。

【営繕部 計画課】

行政、教育文化、福祉等様々な分野に係わる各種の公共建築は、地域の人々の生活に密接な係わりを持ち、地域の活性化、生活・文化水準の向上、街並み・景観の形成等を図るうえで重要な役割を果たしています。また近年、地域との関係を図りながら、公共建築の整備や運営のあり方を考えるべきという気運が高まっています。

このような状況を踏まえ、関係団体、地方公共団体、関係省庁等が幅広く協力しつ

つ、また広く一般の方々にも関心を持っていただきながら、より一層、国民生活に密着したより良い公共建築を目指すことを目的に、「公共建築の日」及び「公共建築月間」を設けています。

四国地方整備局営繕部では、現在工事中の「高松サンポート合同庁舎南館建設工事」の現場見学会を開催し、広く一般の方に見学して頂くことで、四国における広域防災拠点としての機能や役割及び香川県・高松市と協同で整備を進めている「サンポート高松・シビックコア地区」の整備目的に理解を深めていただきたいと思います。

四国における「公共建築の日」及び「公共建築月間」関連イベント

○徳島県 「熊本地震における建築物被害の状況と原因分析に関する報告会」

日時：11月8日(火) 場所：徳島グランヴィリオホテル1階

○愛媛県 「公共建築パネル展」

日時：11月7日(月)～11日(金) 場所：県庁第一別館1階玄関ホール

※建築の基本的な構造を象徴する4本の柱のイメージと国会議事堂の完成(昭和11年11月)などから、11月11日が「公共建築の日」となりました。

■大渡ダムアニバーサリープロジェクト

【大渡ダム】

大渡ダムでは、梅雨前線や秋雨前線による長期の出水や長期の無降雨に伴う渇水など、様々な対応に追われながらも的確なダム管理に努めてきました。そのような中、大渡ダムは昭和61年(1986年)の完成から今年で30周年を迎えたことを記念し、『大渡ダムアニバーサリープロジェクト』と称し、様々な取り組みを行ってきました。

(<http://www.mlit.go.jp/river/annipro/>)

○大渡ダム30周年記念パンフレット

大渡ダムでは、完成から現在に至るまでの30年間の歩みを紹介した記念パンフレット、『大渡ダム30年の歩み』を作成しました。

パンフレットには、ダムの目的・働きに加え、竣工からの仁淀川流域の人口の変遷やダム完成に至るまでの工事の歩みなどを記載し、多くの方々に大渡ダムの歴史について理解していただけたと思います。

パンフレットは、ダム見学や茶霧湖まつりでダムを訪れた方に配布しました。また、高知新聞に取り上げられたこともあり、例年に比べ、多くの方が大渡ダムへ足を運んで下さっています。

○ふれあいバスツアー

竣工30周年記念イベントの第1回として、7月3日(日)に行った仁淀川親子ふれあいバスツアーに合わせて、『ダムの見学会』を実施し、157名の親子が見学に訪れました。ダム施設の概要や働きについて説明したほか、普段は目にすることのできない操作室、堰堤内部を見学していただきました。

参加した子供さんたちからは、「すごい迫力」「ゲートが大きくてびっくりした」「ダムの中って涼しい～」、また、保護者の方からは、「ダムの役割を初めて知った」など、たくさんの感想をいただきました。

○パネル展(茶霧湖まつり)

竣工30周年記念イベントの第2回として、8月16日(火)に行った地元主催のイベント「茶霧湖まつり」に合わせ、ダム施設の概要やダムの30年間の働き等を紹介した『パネル展』を実施しました。

約150名の方にご覧いただき、「今後、昭和38年や50年のような洪水が発生した際には、大渡ダムの働きにより被害が軽減されることを知ることができた」、「完成から現在までの大渡ダムの軌跡を知ることができて良かった」など、様々な声を聞くことができました。

○おわりに.

大渡ダムアニバーサリープロジェクトを通して、イベントに参加して下さった方はもちろん、準備をしてきた職員にとっても、大渡ダムの歩んできた歴史等についてさらに深く知る、良い機会となりました。

今後も、地域と協力しながら多目的ダムとしての役割を果たしていきたいと思っております。

■平成28年度 国土交通省国土技術研究会が開催されました。

【企画部 企画課】

開催日：平成28年11月1日(火)、2日(水)

開催場所：国土交通省(中央合同庁舎2号館)

国土技術研究会は、住宅・社会資本整備行政に係る技術課題、中長期的に又は緊急的に取り組むべき技術課題等について、本省、地方整備局、北海道開発局、地方航空局、試験研究機関等が連携を図りつつ調査・研究を行い、議論を重ねることにより、住宅・社会資本整備に関する技術の向上と行政への反映を図ることを目的として開催するものです。

四国地方整備局からは7月20日、21日に高松サンポート合同庁舎で開催した、「平成28年度 四国地方整備局管内技術・業務研究発表会」において優秀表彰を受けた中から7課題が参加をし、その内3課題が最優秀賞を受賞しました。

<一般部門(安全・安心2) 最優秀賞>

磁気異常密集区域の軟衝撃グラフによる浚渫(高松港)の報告
四国地方整備局 高松港湾・空港整備事務所 工務課 鈴木 理恵

<イノベーション部門1 最優秀賞>

河川狭窄部における洪水時の河床変動調査研究
四国地方整備局 徳島河川国道事務所 河川調査課 長町 剛志

<イノベーション部門2 最優秀賞>

撫養港海岸保全施設整備事業における大型陸閘の自動化
四国地方整備局 小松島港湾・空港整備事務所 工務課 山本 大樹

<http://www.skr.mlit.go.jp/kikaku/kenkyu/>

いきいき四国通信Vol. 81（配信版）.txt
四国地方整備局HP

<http://www.skr.mlit.go.jp/>

「いきいき四国通信」に関するご意見等がありましたら、下記メールアドレスまでお寄せ下さい。

<mailto:skr-seibikyoku@mlit.go.jp>
《平成27年2月からメールアドレスが変わりました》

***** 「いきいき四国通信」事務局 *****

「いきいき四国通信」の配信中止・配信先変更のご希望がありましたら、事務局までFAXまたはメールにてご連絡頂きますようお願いいたします。

国土交通省 四国地方整備局 企画部
【担当】新名、篠崎